

2018年度第2回道連理事会報告

10月17日(水)北大生協岸本理事が議長に選出され、麻田会長からのご挨拶のあと、議決事項①北海道胆振東部地震の対応及び緊急支援募金の取り組みについて、道連が10万円の募金実施を含め、確認されました。②JAグループ北海道と北海道生協連の「連携基本協定」締結について、10月31日締結式及び記者会見について確認されました。③役員補充選任に関する臨時総会開催について確認されました。

④次回1月24日理事会の開催及び役職員向け新年学習会と新年懇親会の開催について議決されました。審議事項について①協同組合連携ネット北海道発足に向けた進捗②LPガス問題の取り組みで北海道行政評価局の調査改善の報告書が発表されたことも含め、経産局への要請などについて取り組むことが確認されま

した。③灯油問題について、今般の原油高での100円超の灯油価格スタートとなったことに関し、11月1日地域灯油懇談会での意見発表や福祉灯油の要請行動を含め確認されました。④北海道胆振東部地震の支援活動の具体化について、支援金の活用及び支援金の引渡し方法について、関係団体の聞き取りを含め、11月中に確定していくことが確認されました。報告事項では、上期決算速報、ヒバクシャ国際署名の取り組み、福祉問題を総合的に考える委員会の報告、大学生協理事長懇談会共催への報告、環境道民会議設立20周年及び北海道命名150年の記念事業への協賛、適格消費者団体及び特定適格消費者団体の適正な業務運営を確保するための内閣府令及びガイドライン〔案〕に関する意見書の提出に関し報告がなされました。

大学生協 北海道ブロック

全道理事長懇談会 開催

10月13日(土)13:30より、北大生協会館にて道内14大学・連合より理事長(7名)専務理事(14名)事業連合、道生協連、全国大学生協連など計32名が参加し、全道理事長懇談会が開催されました。萩原事務局長の開会宣言に続き、北海道事業連合の吉見理事長より、本懇談会の趣旨、今朝の朝刊にあったLPガス問題報道にも触れた冒頭挨拶を受け、全国大学生協連毎田専務より「大学生協の就学支援」について報告と共有を行いました。

北海道ブロック笠原教職員委員長の挨拶の後、同田中委員より「全国教職員交流会 in 富山」の参加報告を受け、「学生支援」とりわけ奨学金問題の現状を全



意見交換する理事長ら

体で共有しました。

続いて参加された各理事長より近況報告がされ、大学経営の厳しさの中、大学と生協が協力して魅力(個性)ある大学キャンパスづくりを進める重要性などが議論されました。

後半は、北海道生協連川原事務局長よりLPガス問題、道内協同組合間連携について報告され、酪農学園生協吉田理事長より世代間ホームシェア視察報告を頂きました。

最後に、北海道事業連合須田専務より、各地大学生協連合会が11月に合併することが紹介され、交流懇親会に席を移しました。



冒頭挨拶される吉見理事長

ミュージカルKINJIRO上演される

～協同組合思想の原点、助け合い・支えあい精神に学びました～

10月15日、JAグループ北海道主催、北海道労金・北海道生協連協賛のミュージカルKINJIROが、共済ビル6階共済ホールで、JCA（日本協同組合連携機構）発足記念・北海道150周年記念事業として開催されました。

当日会場には、600人が参加しJCA勝又専務理事が会場に駆けつけました。参加者の多くは、JAグループの若手職員で改めて協同組合の原点となった精神について学びました。参加者の感想では、「今まで二宮金次郎のことはあまり知らなかったが、初めて知ったことが多く、金次郎について勉強してみようと思いました。」「金次郎さんのイメージはまきを背負って本を読んでいる人ぐらいに思っていたのですが、とても偉い人だったんですね、関心しました」

●二宮金次郎の教えと協同組合

金次郎が教えた報徳思想は、相互扶助の精神の基にある相互に支えあうことの大切さを説き、「人々が助

け合って幸せなくらしと社会を築く」という協同組合の原点を示しています。報徳とは「徳を以って徳に報いる」ことを意味します。人は祖先や家族、地域の人々によって生かされているのであり、自分一人ですべてを生み出すことは出来ません。周囲からの支え（徳）に感謝し、自分自身も人々の支えとなっていく（報いる）ことが人の道であると教えています。

●ミュージカルKINJIROは

金次郎が、報徳思想を唱え、報徳任法と呼ばれる農村復興政策を指導。600もの村の再興に関わり、多くの地域に足を運び、土地や村の有り様を調べ、人々と絆を結び、それぞれの村に合った方法を考え抜いて、再興のために汗を流した姿を、劇団わらび座ならではの、和太鼓・生演奏・伝統芸能で力強く表現していました。とても有意義でさわやかで仕事の糧となるひと時でした。

ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会1周年記念集会

「核兵器のない世界にむけて

私達にできること」を開催

9月29日（土）64名の参加で行いました。冒頭、会の共同代表麻田信二道生協連会長の挨拶のあと、上田文雄（弁護士・前札幌市長）の問題提起において、広島・長崎の体験から平和憲法が生まれた、核保有国やそれに追従する政治家に対し、『諦めない』で訴え続けることが大事とお話について、ピースアクションに参加された高校生や高校生平和大使としてジュネーブに1万名の署名を届け、全道での街頭署名にも参加されている方を迎え、核兵器による被害の惨状や被爆者のお話を聞くなど、この取り組みに参加した経緯や実際に署名を訴える活動で、無視されたり、反論にあう経験なども含め、核兵器に対する認識や反応について率直な感想を述べられました。しかし、現状、歴史



授業の内容で、第2次世界大戦以降の状況について深く学ぶ機会がない中、核兵器・戦争の恐ろしさ

を知る経験を通じ、そのことを知らせる大切さに確信を持って発言するみずみずしさは参加者に感動



を与えました。世界大会に参加した青年も、若者に知らせるために工夫し目立つ取り組みにしていることを発言いただきました。活動報告では生協9条の会、カトリック、生協9条の会の組織的な活動、カトリック正義と平和協議会の情勢にかみ合った話、それぞれ感銘深いものでした。道民の会報告では、賛同は119団体個人139名、募金は59万円が寄せられ、北海道での署名数は602,107筆（9月20日現在）と道民の10%超が集約されていることが報告されました。今後、首長賛同署名の推移から知事・道議への賛同署名要請行動が提起されました。その後の札幌駅前での署名活動は24名の参加で80筆の署名が集まりました。